

景鶴山 山行報告書

【山 域】尾瀬

【ルート】5/4 沼田～戸倉～鳩待峠～山の鼻～竜宮小屋(泊)

5/5 竜宮小屋～ヨッピー橋～与作岳～景鶴山～与作岳～ヨッピー橋～鳩待峠

【行動日】2019.5.4(土)～5(日)

【参加者】CL 柘植、SL 飯田、小俣、園田、磯部(記録)

【行程】5/4 (晴) 沼田 IC ⇒ 鳩待峠(駐車場) 10:25 ⇒ 山ノ鼻 11:35 ⇒ 竜宮小屋(泊) 13:50

5/5 (晴) 竜宮小屋 4:30 ⇒ ヨッピー橋 5:00 ⇒ 堀田代 ⇒ 笹山北方の鞍部 ⇒
与作岳 7:30 ⇒ 景鶴山 8:40 ⇒ ヨッピー橋 11:45 ⇒ 山ノ鼻 14:00
鳩待峠 16:00 ⇒ 尾瀬の湯(入浴) ⇒ 沼田 IC ⇒ 千葉 23:00



【内容】

景鶴山は尾瀬ヶ原湿原からも至仏山・燧ヶ岳からも良く見える山であり、独特の山容持ち、鳩待峠までの道路が開通して雪のある時だけに登れる貴重な山である。車が鳩待峠に到着すると駐車場は既に満杯で、仕方なく柘植リーダーが戸倉まで車を置きに行き、乗合タクシーにてまた鳩待峠まで戻るといふ算段をしながら支度をしていると、駐車場の管理者が、今一台出そうだからと声を掛けてくれてめでたく駐車完了、この日の宿泊地竜宮小屋に向け出発だ。リーダーの的確な判断により実施日を変更したお陰で、晴天のもと冬木の中の雪道を下っていく。



鳩待峠の駐車場で



山ノ鼻に向かう

山ノ鼻に着くと子供を含む大勢の人が休んでおり、テントも沢山張られていた。軽食を取りこれから尾瀬ヶ原横断である。



一面大雪原の尾瀬ヶ原



至仏山をバックに

一面の雪原、太陽の照り返しが眩しい。日焼け止めをたっぷり塗りと塗りサングラスを付けた。行く手に形の良い燧岳、振り返れば至仏山のどっしりとした山容、登っている人が見える。5年前のゴールデンウィーク時、山頂から見た尾瀬ヶ原を今歩いていると思うと感慨深いものがある。行く手右方向には入道雲が湧いてきており、鈴木夫妻の報告書にあった雷雨のことを思い出し、小屋に早く着きたい思いが湧く。湿原は木道もほとんど雪の下だが所々に湿地が見えていて、水芭蕉が蕾を付けているのが見えた。踏み跡がついてはいるが、信用して気楽に歩いていると木道と木道との間を踏み抜いてしまい、ズボッと片足を湿地に入れてしまうことになる、メンバーの延べ落下回数は往復で5回であった。



生まれたての池塘と燧ヶ岳



部分的には木道が顔を出している

怪我をせずに済んだのが幸いだ。青空をバックに左手に明日目指す景鶴山が見えてきた。大きくて丸いニュー岩が山頂のすぐ下に見えているが、落ちそうに見えるのが怖い。雪崩の痕跡も見ることができて、楽しみではあるが緊張を感じる。雪解けが始まった池塘が水色に輝き良い風景だ。しかし、雪原は波うち凍り歩きにくく、踏み抜きを心配しながらの歩きなので疲労を感じる。私は久しぶりに履いた雪靴のせいか足先がうっ血状態になり、相談するとつま先の近くの靴紐の締めすぎを指摘され、緩めるとすぐに回復、指摘されて初めて納得。竜宮小屋は我々のグループに一部屋を与えてもらえ、檜風呂があり、トイレも布団も清潔、大変に気持ちの良い小屋であった。



明日登る景鶴山をバックに



竜宮小屋の談話室でくつろぐ

5月5日、3時に起床して満天の星を見る、4時半に小屋を出発。白樺林の木々の間を朝霧がゆっくりと流れていく、何とも幻想的な光景である。ほどなくヨッピー橋に到着、不要な荷物をデポして横板を取った鉄骨だけの橋を渡る。気温マイナス1.4、鉄骨は霜で覆われている。足の短い私は両足を開いて進むのは無理で、同じく小柄な小俣さんの渡り方を真似して、欄干を抱え込むようにして両足は一直線に置いて滑るように、下を流れる川の急流におののきながら渡り切る。今思えば、この橋の恐怖は序の口であったが。

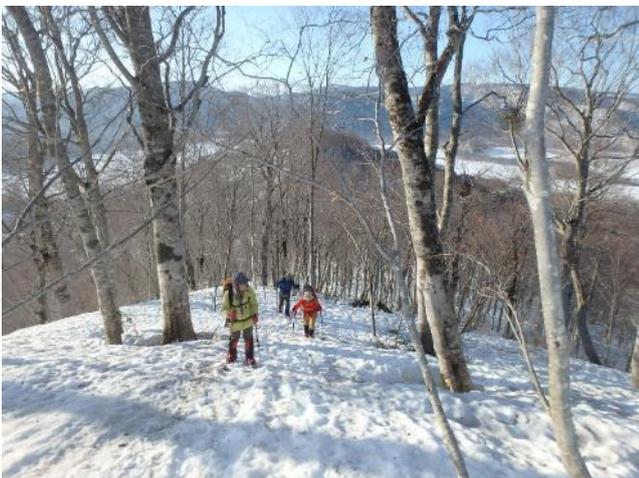


夜明けの尾瀬ヶ原

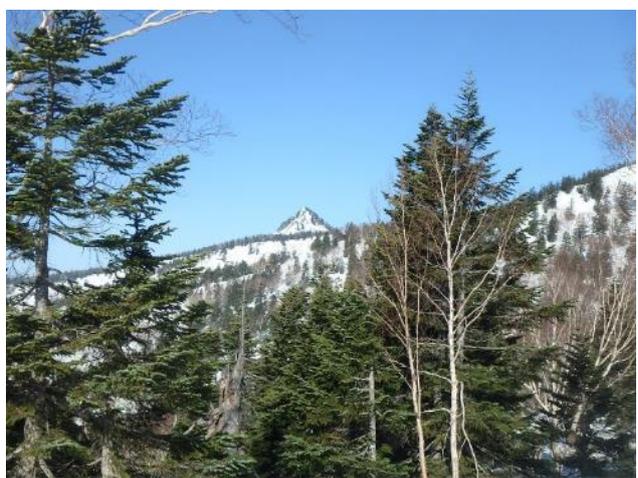


ヨッピー橋を渡る

この先の鞍部までは急登が続ききつい。さらに進み平ヶ岳、その後方に会津駒ヶ岳、そして三角形の景鶴山が尾瀬の槍ヶ岳と言った風体で見えて来る。



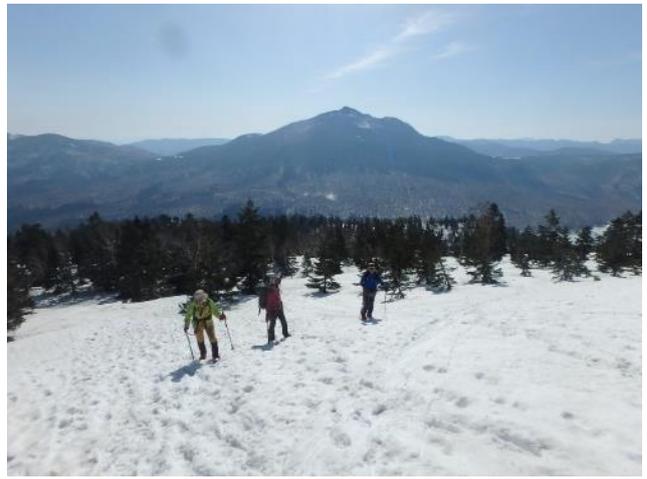
鞍部から与作岳を目指す



槍ヶ岳を思わせる景鶴山



日光白根山が見えてくる



与作岳山頂ちかく



与作岳山頂から 左：平ヶ岳 右：荒沢岳



与作岳から景鶴山を目指す

頂上直下、これからの難所を目の当たりにする。無理せず、私は空身でストックとピッケルで登ることにした。ピッケルの使用は初心者にてこれまでの登りで教えていただいたことを思い出しながら取りついた。見上げると、ニュー岩までナイフリッジの急登、下を見れば両側ともに深く切れ込んでいる。つい前を行くリーダーに頼りたくなるが、あくまでも自己責任、自分で選んだ道と覚悟を決めて進む。両手が塞がっているの、藪をつかむためのもう1本の手が欲しいところだ。焦るな！と言い聞かせながら慎重に進み、ついに頂上に立つことができた。頂上からの眺めは、ここまでの辛さを吹き飛ばしてくれた。尾瀬ヶ原を挟んで至仏山と燧岳が向かい合っている、雪原には蛇行した川が黒々と流れている。苦労の後頂上を踏んだ時の達成感山登りの醍醐味であることをこの山頂で改めて感じた。感じの良い若者に写真を撮ってもらい、惜しみつつ下山した。



景鶴山の狭い山頂



景鶴山からの下山



景鶴山と与作岳の鞍部から尾瀬ヶ原を見下ろす



ヨッピー橋と向こうは景鶴山

帰路はまた雪原で何回か木道の間を踏み抜き、疲れもあつてか単調な景色に少々飽きてきたが、山ノ鼻にて美味しい山菜そばを食べて元気をつけ、鳩待峠までの最後の登りを頑張った。

立ち寄り温泉尾瀬の湯は利用料が500円と格安、綺麗で女子風呂はメンバーだけで占領、質の良い湯にて疲れを癒す。夕飯時、雪山初心者の私はピッケルとストックの使い方などレクチャーしていただき勉強になった。久しぶりの雪山であったが、靴紐の結び方からピッケルストック、アイゼン、下りでのかかとの使い方まで学ぶことができたのは大きな収穫である。ピッケルはもう使うことが無いかな、どなたかに譲ろうかしらと思っていたが、しっかり勉強してまた使って行きたいと思う。

リーダーの天気判断が的中、2日間とも晴天のもと雪山を楽しむことが出来き、私にとっては沢山のことを学ぶことができた山行となった。同行していただいたメンバーに心から感謝いたします。

報告(磯部)